

平成27年 教育委員会第13回定例会秘密会 会議録

日 時 平成27年7月27日（月）

午後2時28分～午後5時36分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 2 協議

【指導課】

(1) 平成28年度使用 中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択

出席委員（4名）

教育委員長	中川 典子
教育委員長職務代理者	古川 紀子
教育委員	金丸 精孝
教育長	島崎 友四郎

出席職員（8名）

子ども部長	保科 彰吾
教育担当部長	小川 賢太郎
子ども総務課長	村木 久人
指導課長	杉浦 伸一
指導課 統括指導主事	高橋 美香
指導課 指導主事	磯野 智博
指導課 指導主事	畝尾 宏明
指導課 指導主事	小林 成行

欠席委員（0名）

欠席職員（0名）

書記（2名）

総務係長	久保 俊一
総務係員	田口 有美子

中川委員長 | ただいまから平成27年度教育委員会第13回定例会秘密会を開催いたします。

◎日程第2 協議

指導課

(1) 平成28年度使用 中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択

中川委員長

日程第2、協議に入ります。

平成28年度使用、中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択について、指導課長より報告いただきます。

統括指導主事

本日、指導課長が公務のため、遅参いたします。代わって私からご説明をさせていただきます。

この平成28年度使用、中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書の採択につきましては、専門的な調査研究、適正かつ公正な採択の確保、開かれた採択の推進を基本姿勢として調査研究に取り組み、7月10日の第12回定例会におきまして、中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書選定委員長より答申をしたところでございます。本日は、その答申の内容について、各委員の方々にご協議をお願いしたいと思っております。

なお、本件につきましては、千代田区立小・中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択事務取扱要綱第8条に規定します、審議の公正を確保するため非公開との決定をいただいておりますが、採択後に会議録を公開する手続きをとりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、本件につきまして、先日の教育委員会において答申されました答申書及び資料等を、皆様ご持参いただいているかと存じます。

各委員会の構成につきましては、答申書に添付しております資料1及び資料2をご覧ください。調査研究の経過及び答申の概要につきましては、資料3をご覧ください。

資料3にございますように、6月2日第1回教科用図書選定委員会において、選定委員長より各学校長に教科用図書調査委員の推薦を依頼し、併せて教科図書研究会の開催を依頼いたしました。その結果が、様式1から3までまとめられております。本日は、選定委員会より審議の結果をまとめて提出されました様式3の資料に沿って協議をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いたします。

中川委員長

協議に先立ち、その前に何点か確認させていただきます。

まず、各出版社から出されている教科用図書についてですが、これらは全て国の検定を通過しており、つまりどれも基準を満たしていること、また、学習指導要領は、社会科において一部改訂がございましたが、それ以外は改訂されておらず、前回の採択時と同じであるということです。もちろん前回選択したもので、大きく不都合がある場合は変更する必要があります。加えて、答申結果は、実際の現場において授業を行っている教員の協議の結果であるということです。

これらを踏まえた上での協議をお願いしたいと思います。本日の協議をもとに、種目ごとに採択の候補とする教科書を決定していきます。やむを得ない場合には挙手で決めます。同数の場合は、委員長の権限で決定させていた

だきます。

それでは、種目ごとに進めます。種目は15種目ありますので、よろしくお願いいたします。

では、まず、国語です。事務局より説明をお願いいたします。

指 導 主 事

では、国語について報告いたします。

よろしければ、ご用意させていただきました教科用図書や資料等を自由に手にとって、確認しながら聞いていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、国語について報告いたします。

発行者は5社ございます。いずれの発行者も大変良い仕上がりとなっておりますが、特に調査委員会の評価が高かった3社について報告いたします。

まず、学校図書です。内容の選択ですが、収録されている教材が多く、その内容にも深まりがあります。教材が多いということは、授業者のほうで教材の取捨選択をすることができるという利点があります。また、その教材自体も平易なものから難度の高いものまであり、生徒の実態に応じて教員が工夫できるという点が高評価でした。千代田区ならではの特性という項目でございしますが、2年生の教科書に、千代田区が舞台となっている安岡章太郎さんの『サーカスの馬』という教材が入っていることもプラス面の評価です。

続いて、東京書籍です。全体的に内容が適切であり、教材の分量、難度とも標準的です。特に巻末にある「てびき」という、授業をする上で授業者にとって実践的などとも使いやすい内容となっているものがございました。発展教材が余りないので、深まりのある教材がもう少し欲しいというのが選定委員の率直な印象でございました。

続きまして、三省堂です。内容選択に、「時代性があり」とありますが、これは、「聞く、話す」の項目が充実しているという部分が特徴であるということです。ただし、内容面としてはやや易しい文章が多いという評価でした。

以上でございます。

中 川 委 員 長

ありがとうございました。

ただいま報告がありました種目について、ご意見がありましたらお願いいたします。

金 丸 委 員

皆様のご意見を伺いたいのですけれども、国語で、「聞く、話す」が多いとか少ないとかという評価があるじゃないですか。国語に限らず、今の授業の状況というのは、全ての教科で、「聞く、話す」をやっているように思うんですね。すると、国語で特にそれを重点的にやらなきゃいけない必然性があるのかどうか。反面において、私のほうは、今の子どもたちの最大の問題というのは、語彙が少ないために、話し合いが非常に平面的なものになって、いろんなトラブルを起こしているというような気がするので、語彙をたくさん手に入れられたほうがいいんじゃないかという気持ちもあるんですね。だけれども、話す、聞くが非常に重要なことだとすると、そうも言って

いられないなど。その点がどうなんだろうかということをお伺いしたいと思っています。

指導主事

ご質問にありました全教科領域において、話すこと、聞くことというのは行われているのではないかとということでございますけれども、そのとおりではないかと思えます。いわゆる言語活動の充実と言われているところがそれに象徴されるものかと思われます。

ただ、国語における話すこと、聞くことという項目と、各教科における言語活動の充実と言われているところの、いわゆるグループごとに話し合ったりとか、討論したりとかといった部分は、すこし違います。話すこと、聞くことの内容について教えているところは国語科であって、それを使って他教科領域の目標とか教科の狙いを達成するために、友達と話し合ったり、協働的な学習をしたりといったところが言語活動の充実、ひいては思考力、判断力、表現力を身につけていくということにつながっていくので、国語科において、話すこと、聞くことをしっかりと指導していくということが今求められているものではないかなと考えます。

統括指導主事

また、加えまして、この国語科での話す、聞くという活動につきまして、今、指導主事が話しましたように、全教科のベースとなるものといったところの位置づけでございますので、国語科における話す、聞くといったところは非常に重要であるということ。あと、もう1点、委員ご指摘いただきましたように、語彙が少ないのではないかとといったところにつきましては、また反省点として、やはりこれは教科の指導の中で、各教科においてきちんとそれぞれ身につけていくべきものと考えておりますので、こちらについては、一層、指導を充実させていきたいと考えております。

金丸委員

ありがとうございます。

中川委員長

国語科というのは、「話す、聞く」より以前の、語彙の豊富さももちろんですし、日本語をきちんと話せるかどうかということにもかかってくるわけで、その辺をきちんと国語でやっていただきたいというのがありますから、それをもとに教科書も選びたいと思いますけれども。

教育長

国語については、選定委員会から、学校図書館の教材は、収録数が多く、平易なものから難解なものまで幅広く、先生が生徒の学力に合わせてその中の教材を任意に選択して指導できる、そこがところが大変いいという評価がありました。

また、東京書籍は、教材の数は標準的でバランスが取れているけれども、発展的教材が比較的少ない、また、三省堂についても、教材の内容は現代的だけれども、教材の数が少なく、内容が易しくて、やや深みがないというような意見をいただいています。

私も、三社の教科書に目を通しましたがけれども、確かに学校図書館は、教材の数が多くて、難易度もかなり難しいものも入っているなと思いました。

千代田区の生徒の状況は、先ほど達成度調査の報告もありましたけれども、全国と比べても達成度が高いという状況の中で、国語については先生が

子どもたちの学力の状況に合わせて教材を取捨選択して、子どもたちに合わせた教育をするということがやはり重要かと考えます。私としては、そういう意味で、選定委員会から答申のあった学校図書の教材は優れていて、千代田区の教材としてはふさわしいのではないかと考えます。

中川委員長

いかがですか。

古川委員

ぱっとは絞れなかったんですけども、学校図書のものは、扱う教材の構成というか、目次で、まず、教材の内容の基本のテーマというか、一言で目次でくくりがある、そこに教材を扱う基準に深さを感じて、印象に残っております。学校図書の教科書がいいのではないかと思います。

中川委員長

いかがですか。よろしいですか。

金丸委員

私は、正直言いまして、読ませていただいて、それなりにそれぞれがいいと思っっているんですね。先ほどお聞きしたのは、「話す、聞く」が評価の中で、学校図書は少な目というものを、どの程度重視すべきかどうかということちょっと悩んでいます。

中川委員長

評価の表の中ですね。そうですね、「話す、聞く」は少な目という記載がありますね。

ここでなぜ「話す、聞く」というのが出てきたのかということもあるかと思うんですけど。私は、国語というのは、そういう「話す、聞く」の技術より前に、いい日本語にたくさん触れさせるのがいいのではないかと思うんですけども。それを考えて、教科書をいろいろ見たときに、教材的にはやっぱりこの学校図書が一番いろんな、いい文章が出ているかなと思いました。

金丸委員

実は私もそう思ったものですから、「話す、聞く」の重要度によって、そのところは、基本的な語彙がきちんと確保されて、そして、ほかの教科でもそういう訓練をしているとなれば、多少、少な目でも問題はないだろうと実は思っていたんですね。先ほどの説明だと、必ずしもそうではなくて、基本的なところがあるというお話なものですから、もう少し考えさせていただきたいなと思っています。

中川委員長

あと、私は1点、学校図書がいいとは思いますが、千代田区の学校は、みんなある程度達成度をカバーしているからということが理由になっていますけど、公立の学校ですから、そこまで達していない子ももちろんいるわけです。豊富な内容から取捨選択はできるのだけど、基本をきちんと身につけるには、先生方の指導力やカリキュラムの立て方に、気をつけていただきたいなと思いました。

統括指導主事

それでは、事務局からよろしいでしょうか。今、2点お話があったかと思えます。国語科における「話す、聞く」の重要度についてということでございます。こちらにつきましては、おっしゃるとおりに、確かに学校図書の教科書につきましては、「話す、聞く」については少し絞られた形になっているということがございます。この全体的なバランスといったところについて、やはりこの教科書の教材として、まず、それぞれがふさわしいかといったところで見えていただくのがよいかと思います。というのは、ページ数の多

少はありましても、それを何時間かけて、どのように取り扱うかによって、またいろいろと大きく変わってしまう部分もあります。私どもは、先ほど申したように、国語科は言語活動の基礎という意味では、本当にそれが重要でベースとなるところだと思っております。ですので、最適なものをぜひ選んでいただきまして、それを使ってきちんと教員が指導できるように、指導をしてみたいと思っております。

また、取捨選択できるようなカリキュラムということでお話しいただきましたが、これにつきましても、年間の計画を事前に出させておりますので、学校に合った、生徒の実態に合った計画を立てるように、しっかりと指導していきたいと思っております。

中川委員長 はい。国語科につきましては、ほかに何か意見はいただけますでしょうか。

教 育 長 最近、千代田区の学校も、全国の学校も、かなり読書活動に力を入れていて、1日の始めに朝読書を取り入れたりする学校が増えていきます。昔は情報を仕入れるのに、本が主だった、本しかなかったという状況でしたが、今はテレビとかネットとか、さまざまに情報を収集するツールがあって、逆に、子どもたちの読書力や読書量が落ちている。そういう時代状況にあって、子どもたちにさまざまに読書についての動機づけをして、書物を通じていろんな知識を身につけさせたり、あるいは生き方を考えさせたりすることって非常に重要だと思います。そういう意味で、先生がさまざまな中から教材を取捨選択して、子どもたちに刺激を与えて、生き方とかを考えさせたりすることって大事かと思えます。私も中学校のときに、学校でこの本を読みなさいと勧められて読んだ本が、いまだに心に残っています。収録教材に主体を置いて、先生がそれをもとに、多様に国語の授業を展開するという意味では、私は学校図書がいいのかなと思います。

中川委員長 わかりました。

では、よろしいですか。

(な し)

中川委員長 学校図書を候補とすることよろしいですか。

(賛成者挙手)

中川委員長 では、国語は全員一致で学校図書を候補とさせていただきます。

次に、国語の書写です。

書写についてご説明お願いいたします。

指 導 主 事 それでは、書写について報告いたします。

書写も、国語同様、発行社は5社あり、いずれも大変良い仕上がりとなっております。その中でも、特に調査委員会より評価の高かった3社について報告いたします。

まず、学校図書です。内容の面でございますけれども、毛筆の内容がとても充実しており、特に、書き初めの手本が充実しているところが高評価でした。さらに、1年生から3年生の学習の段階がわかりやすく表示され

ているというところもございます。また、発展・補充教材の扱いですが、篆刻について紹介するという工夫がなされています。

続いては、光村図書出版です。全体にバランスがよく、適切であります。やや毛筆の取り扱いが少ないという報告を受けております。使用上の便宜として、硬筆で教科書に直接手書きするページがありますが、それが書きやすい紙質になっているというのが光村図書出版の特色でもあります。

最後に、教育出版社です。毛筆の筆遣いに関して、お手本全てに穂先がどこを通るかという筆脈がわかりやすく赤で示されており、実際に生徒が書くときもとても便利であるという評価です。実生活に役立つような項目も充実しております。

以上で、書写についての報告を終わります。

中川委員長

ありがとうございました。

この書写についてご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

金丸委員

これについての質問をさせていただきます。多分検定を通っていますから、みんなバランスの多少があるだけなのだろうと思うんですが、書写において、硬筆をメインにするのがいいのか、毛筆をメインにするのがいいのかという見方の問題があるかと思うんですね。私自身は、今パソコンをやっているものですから、毛筆も、それから硬筆も書けなくなっているんです。そのときに、硬筆を書くためには、毛筆を書かざるを得ないんですね。毛筆で少し書いておいてから、硬筆に戻ると、実は字が書けるんです。そういう意味ではやっぱり毛筆が基本かなとは思っているんですが、そういう考え方は特殊な考え方で、おかしいんじゃないかという意見もあるかと思うんですが、今の毛筆と硬筆のバランスについて、どのようにお考えになっていらっしゃるか、教えていただけるとありがたいです。

指導主事

ご質問にお答えしたいと思います。選定委員会の中でも同じような議論がございました。その中でもやはり毛筆を充実させていくことが大切ではないかという協議がなされました。また、その毛筆での筆遣いを生かして、硬筆において字を整えていくというようなところを教えていくというあたりを大切にしたいという報告が選定委員の中でもありました。

以上です。

金丸委員

ありがとうございます。

もう1点だけよろしいでしょうか。私は、この学校図書、篆刻についても紹介しているって非常にいいなと思っておりまして、篆刻だとか八分だとか、いろんな書体があるじゃないですか。こういうものを少しでも見ていると、そういうのに触れたときに、子どもたちの興味が発展していくだろうと。そういう意味ではすごく素敵なことだなと思っています。

指導主事

篆刻については、教科用図書100ページをご覧ください。

中川委員長

ほかの教科書には、篆刻はなかったんですか。

指導主事

ほかの発行者のところにはございませんでした。

中川委員長 きちんと筆遣いの基本を中学ぐらいで教えておくということは大事ですね。そういう意味では、私もこちらがいいかと思います。

篆刻も後で意外に役に立つんですよ、いろいろ自分の花押を作ったりとか。

これは、篆刻は篆刻だけど、体験しようで、消しゴムかな。やはり石を使っているのかな。経験できるようにできていますね。

どうぞ。

教 育 長 私も、この3社を見比べて、毛筆と硬筆の取り上げ方が気になったところ
です。確かに、学校図書は毛筆が充実しているという印象を受けた反面、硬筆が少ないかなと思いました。逆に、光村図書は割と硬筆に力を置いている。教育出版は、大体バランスがとれているけれども、毛筆が充実しているなという印象を受けました。

毛筆、硬筆を考えたときに、どちらが大切なのかと自分なりに考えたんですけれども、小学校段階では、鉛筆できちんと字を書く基礎的習慣を身につける意味から、硬筆というのは大事だと思いますけれども、中学校になると、基本的に、毛筆の筆遣いをきちんと学んで、それをもとに自分の字を組み立てていくという比重が多くなるので、毛筆をうまく書ける、そういう力をつけることは大事かと思い、毛筆が少し重いという内容はいいのではないかと考えています。

その上で、学校図書と教育出版を比較したときに、教育出版は穂先の進め方が丁寧に記載されていていいという選定委員会の評価があって、その指摘は、私もなるほどと思いました。

教育出版がいいか、学校図書がいいか、私も悩んでいるのですけれども、先ほどお話があったように、篆刻を取り上げたりして、書写に対する幅広い視点を提供しているというところは学校図書の優れたところかなと、思っています。そういうことから、選定委員会の評価の高かった学校図書でよろしいかと考えています。

中川委員長 はい。ありがとうございます。

いかがですか。

古 川 委 員 私もまず、毛筆と硬筆がバランスよく載っているものがないんではないか
と
思っていたのですけれども、答申を受けまして、学校図書は毛筆が充実している、書き初めの手本が充実しているという点で、いい点として挙がって
いまして、ご指導をされる先生方の立場に立っては、書写の指導も難しいのではないかなと思ひまして、まず、そういう面から使いやすいと先生がされるものがないなと思ったことと、それに加えて、先生方の答申で、毛筆と硬筆のバランスがよく、なおかつ、毛筆のほうに重きを置いているというような内容がありましたので、先生方の使い勝手を考えて、毛筆が充実している学校図書がいいかと思いました。

中川委員長 わかりました。

では、一応意見が出そろったと思いますので、候補を決めたいと思います

が、よろしいでしょうか。

(了 承)

中川委員長 それでは、学校図書を第一候補とすることでよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長 では、書写につきましては全員一致で学校図書を採択の候補とさせていただきます。

次に、社会の地理的分野です。

指導主事 それでは、地理的分野です。地理的分野、全部で4社ありまして、そのうち評価の高かった3社について報告させていただきます。

まず、帝国書院です。資料が豊富で、見やすい形に表現されていました。また、帝国書院は、地図帳も出していますので、地図帳との使い合わせがとても便利になっております。続きまして、構成・分量なのですが、「学習を振り返ろう」というところがありまして、まとめの学習を行う際に役に立つという意見がありました。また、地形図の学習につきましては、身近な地域の調査で取り上げるほうがよいのではないかという意見もありましたが、本区の地形としては余り高低差がないということがありましたので、高低差の違いという点では、こちらに載っている資料のほうがわかりやすいのではないかという意見になりました。続きまして、表記と表現の部分ですが、比較的地図が大きく表現されておりまして、非常に見やすく、生徒も非常にわかりやすいつくりになっております。使用上の便宜といたしましては、世界の諸地域の学習のところ、「人々のつながり」、「環境」など、テーマを応用課題として提示しておりまして、特徴を読み取らせるという形になっております。そういう意味で、本区としては、比較的知識理解の高い生徒が多いので、応用、発展という点という観点で見ますと、帝国書院は扱いやすいという意見が多くありました。

続きまして、東京書籍です。内容の選択ですが、1單元ごとに振り返るページが用意されておりまして、知識の定着を図りやすく、そして統計資料が豊富にあります。振り返りのページがすぐにあるというのは良いという意見が多くありました。表記・表現としましては、小単元の項目名が適切である、そして、色遣いがカラフルで見やすく、比較的色遣いがはっきりとしているという意見がありました。使用上の便宜としましては、各単元の最初のページで大きい写真が掲載されていますので、イメージしやすく、導入に使いやすいという意見になっています。発展・補充教材の扱いとしては、「深めよう」、「地理スキルアップ」、「調査の達人」など、地理的な技能や知識を身につけるための項目が豊富にあるという点も非常に発展学習というところに繋がっていく項目だと感じております。

帝国書院と東京書籍、この2社に関しましては、先ほども触れましたが、両者とも地図帳が発行されていますので、そちらの面で使い勝手がいいという意見が多く挙がっております。

教育出版です。教育出版は、内容の選択としましては、單元ごとに地図が

掲載されていますので、地形の学習を行いやすいこと、そして、図版が見やすいことがあります。表記・表現としましては、小単元の項目名が適切であり、そして、色遣いとしてはやや単調という意見と、一方で、そちらのほうむしろ見やすいという意見が、双方ありました。使用上の便宜としましては、統計地図が豊富なので、発展の学習に取り組ませることがしやすい。そして、発展学習に続くような項目があるというところは良いという意見があります。発展・補充の教材の扱いとしましては、コラムの分量が多い。そして、生徒の興味関心を高めたり、知識の定着を図ったりすることがしやすい。そして、この教科書の特色としましては、このコラムが長目にとられているということが挙げられています。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

地理的分野に関しまして、ご意見お願いいたします。

古川委員

教科書を選ぶに当たって、いつも気にしている点があるのですが、特に地理は、写真や表や地図や図や、いろいろな資料が多いので、見たときにそれが一番わかりやすく見てとれるものを選ぶポイントかなと思っております。

そうしますと、帝国書院と東京書籍、似ているところがあるのですが、帝国書院の地理がいいのではないかと思います。

金丸委員

正直言いまして、選ぶのに困る分野だっただと思っています。ただ、全く素人なりに見たときに、帝国書院が一番見やすかったらう、そういう意味では、生徒たちから見ると、見やすいという意味では帝国書院が一番なのではないかとは思いました。

ただ、1点わからないのは、帝国書院の場合には、応用課題として提示があつて、特徴を読み取らせるようにしているという、その読み取らせるというところに力点が置いてあるというご報告だろうと思うんですけどね。

逆に、東京書籍とか、それから教育出版のほうは、知識の定着だとか、知識を豊富に身につけるというところに重点が置かれているように思うんですけども、この点について少しお聞きしたいんですが、私は、地図を見て、そこからものを見出していくとか、確認できるということが必要なものであつて、知識を入れることが地理の中心的な課題ではないのではないかと考えていまして、そう思うのが、これもまた、先ほどと同じで、私の独善的な考えなのかどうかというところをお聞きしたいと思います。

指導主事

今のご指摘の部分ですが、もちろん全教科において、知識の定着というのはすごく大事になってくると思います。今ご指摘いただきましたそれ以外の部分に関しましては、先ほどの帝国書院の説明のところで触れたのですが、本区の生徒の特徴として、基本的な知識というのは定着しているだろう。ただ、もう一つ、さらに伸ばしていきたいのは応用力という部分では、今回帝国書院のほうは、先ほどご指摘いただきましたように、応用に活用できますような資料が非常にあります。また、今後の学習としましては、アクティブ

ラーニングということが十分求められてきますので、その点でもやっぱり帝国書院というのは、本区の特徴としてはいいのではないかという意見が多かったです。

金丸委員
中川委員長
教育長

ありがとうございます。

どうぞ。

私も、この社会の地理の分野は、どの教科書がいいか非常に迷いました。私なりにそれぞれの特徴を見ると、帝国書院は、やはり地図が大きくて見やすかったりとか、テーマを学習課題として提示して、生徒に考えさせるような内容になっています。

一方、東京書籍も、ぱっと見た感じが、色遣いがカラフルで、かなり見やすいなと思いました。また、インパクトのある構成になっていて、先ほどお話もありましたけども、単元の初めに写真が一面全部に取り上げられていて、視覚的に印象強い面があって、この教科書もいいなと思いました。

教育出版は、確かに図版は見やすいのですが、私なりには、色遣いが他の2社と比べてやや単調かなとか、写真も小さ目かと思いました。

帝国書院か東京書籍か非常に迷ったんですけども、先ほどお話があったように、帝国書院は資料がかなり豊富で、子どもたちに考えさせる内容になっていたりとか、あるいは122ページとか225ページとか227ページ、228ページ等、写真で千代田区が比較的多く取り上げられていて、子どもたちがこの教科書を見る中で、自分の住んでいる地域を身近に感じられるところが多いかなという思いもあって、トータルに見て、帝国書院でよろしいのかなと思います。

中川委員長

資料が豊富ということは大事なことですけど、いろいろ資料を比べてみますと、いろんな地域をイメージさせるような資料とか、写真とか、そういうものが必要だと思うんですけど、この帝国書院は、それがよく出ているなと私も思いました。

では、このぐらいでよろしいでしょうか。

(了 承)

中川委員長

地理的分野に関しまして、帝国書院を候補とさせていただくということでもよろしいですか。

(賛成者挙手)

中川委員長

では、帝国書院を全員一致で候補とさせていただきます。

次に、歴史的分野に行くことになるのですが、地理と使い合わせの関係で、地図がありますので、そちらを先にしたいと思います。

指導主事

それでは、先に、地図帳のほうを説明させていただきます。

まず、帝国書院です。帝国書院は、構成・分量、そして内容選択ともに適切でありました。そして、地図の部分に歴史的な事象の書き込みがありまして、活用範囲が広いつくりになっております。また、帝国書院の地図帳は色合いと文字の兼ね合いがあり、字が読みやすい印象があるという意見があります。歴史的な事象の書き込みがあるというのは、歴史のほうでも地図帳を使

うという部分では、すごく大きなところではないかと思っております。表記・表現としましては、色合いがよくて、図版の見やすさが優れています。また、アジア、アフリカの鳥瞰図のところでは地図を立体的に捉えることができ、内容が豊富であります。平面だけではなくて、鳥瞰図のように立体的視野で見ることができるのが、生徒にとって、地図に対する取り組みやすさに繋がると思われます。発展・補充教材としましては、気候などの環境の項目が充実しております、生徒の思考力を刺激する資料が多い。発展的な学習に繋がる内容が多いということがあります。気候などの環境の項目の充実というところでは、生徒が地図を見ながら考えることもできるということで、発展学習にも繋げることができます。

東京書籍も、同じく、歴史に関する記載があったのは帝国書院と同様に、これは評価をされているところです。表記・表現としましては、色彩が鮮明になっております。それから、動物について、イラストではなく、写真を使っているところが非常に良いという意見がありました。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

地図についてはいかがでしょうか。

はい、お願いします。

金丸委員

地図はいずれも、どれがいい、悪いということはないと思うんですけども、私の目から見ると、帝国書院のほうが見やすい。多分昔もこういうような色遣いをしていたという意味なのかもしれないと思うのですが、見やすいと思いました。では、帝国書院と東京書籍が、決定的に何か違うものがあるかといったら、全くないと思います。

そういう意味では、もし教科書で帝国書院を使うということになるのであれば、一体化のほうがよろしいだろうとは思いますが、その程度しか、差は見つからなかったと私は思っています。

中川委員長

いかがですか。

暫時、休憩します。

(休憩 15:13 ~ 15:15)

中川委員長

会議を再開します。

事務局から補足をお願いします。

指導主事

では、補足させていただきます。

今の金丸委員からの2つの会社の差という部分でお話がありました。この点につきましても話になりまして、統計という部分では大きな差は、両者はありませんが、雨温図の扱い方を2つの会社で比べてみますと、これは帝国の11ページ、そして東書は9ページになるのですが、雨温図のそばに自然の景観に近いのが帝国書院であり、そしてそれが離れているのが東京書籍となっています。そうすると、雨温図で、例えば乾燥の湿地帯のほうで、雨が降らないから砂漠に近いということになっています。温帯は、雨が降って緑とか農業が多いなど、生徒が見やすく、先生方も教えやすくなっているのが帝

国書院になっているのかなと思われます。その点でも、帝国書院のほうが若干使いやすいという意見が多かったです。

以上です。

中川委員長
教 育 長

ありがとうございます。

帝国書院と東京書籍を比べたときに、どちらかという、色遣いにしても、帝国書院はぱっと見たときに、結構黄色を多用していて、インパクトが強い。一方、東京書籍は割と穏やかな色遣いをしていて、優しいやわらかな感じを受けました。帝国書院は黄色が多かったりして、目立った印象を受けるのと、確かに鳥瞰図というんですかね、でこぼこを多用した図が、かなりいろんなところに多用されていて、立体的なイメージを持つのに、帝国書院のほうが工夫されているなと思いました。

穏やかな色調の東京書籍の地図も私はそれなりにいいと思いましたけれども、若い中学生を対象とした地図として、鳥瞰図に迫力があつたりとか、目立つ色遣いをしている帝国書院がいいと最終的には思ったところです。

中川委員長

ありがとうございました。

一言つけ加えさせていただくと、こちらの帝国書院のほうは、非常に具体的に日本の状況が出ていまして、8月の気温という図を見てみると、なるほど日本というのはすごく温度が高くなっているんだなということなどが具体的にわかるのですが、東京書籍は、それが数字で羅列してあるだけだから、やはり帝国書院のほうが具体的かなというのを感じました。

古川委員

まず、2社の色調の違いなのですが、今、教育長からありましたように、東京書籍の落ちついた色調も、それはそれでいいかなとは思いました。ただ、帝国書院のほうやはりぱっと目に入ってくる点ではわかりやすいなと思いました。

先ほど指導主事から2つの違いの一例を挙げていただきましたが、雨温図のところで、その地域の景観の写真の配置によって、ぱっと理解する、理解度が違ってくるのではないかと、よくまとまっているなと思いました。この雨温図のページでいくと、色調のことで言えば、世界地図もその地域に、温度で色分けされているのですけれども、東京書籍よりも効果的な色調で、世界の温度の分布の感じがすぐ目に飛び込んできていいかなと思いました。

中川委員長

ありがとうございます。

大体、意見は出そろいましたか。

(了 承)

中川委員長

それでは、地図の候補を決めたいと思います。

地図は帝国書院を候補とすることよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

では、帝国書院を全員一致で候補とさせていただきます。

次に、社会の歴史的な分野を検討したいと思います。

指 導 主 事

それでは、歴史的な分野です。

全部で8社あり、評価の高かった3社のほうを紹介させていただきます。

まず、東京書籍になります。内容の選択としましては、労働問題などの時事問題が詳しくまとめられています。巻頭に人物が絵になっていて、続いているページがありまして、この「歴史の流れ」のページが、小学校の歴史学習の復習によく、そして、小学校の連続性に非常にこれは適しているという意見をいただいています。小学校は人物を中心とする歴史を行いますので、中学校の歴史に入って、生徒たちの目を違和感なく歴史に向けることができます。そして、本区でも多くの教員がこれを利用しています。次、構成・分量としましては、レイアウトがよくて見やすく、そして写真が豊富であって、使いやすくなっています。表記・表現としましては、色遣いが良くて大変見やすくなっています。使用上の便宜としましては、最後のほうに難解な用語についての説明がまとめられており、生徒の自主的・発展的な学習に繋げることができます。生徒が自分で調べて学習をする際に、難しい言葉を自分で理解するということがこの場合は可能という意味では、すごく良いと思います。

帝国書院です。内容の選択としましては、「学習を振り返る」のページで復習がしやすく、記述が詳しいということです。振り返りのページがあるというところは、やはり生徒の自主的な学習に繋がるのではないかという意見がありました。構成・分量としましては、絵や資料が比較的多く、そして資料・素材の量がちょうどいい。絵とか資料が非常に豊富にあります。発展・補充教材としましては、発展的な内容が多くて、生徒たちの知的好奇心を満足させる、そして非常に発展学習に力を入れています。

教育出版です。内容の選択としましては、近現代の記述が詳しくなっているのがこの教科書の特徴になっております。構成・分量としましては、歴史の人物の写真や絵が多く、興味が持ちやすく、見やすくなっています。表記・表現としましては、字が大きくて、すごく見やすい。比較的字が見やすい書き方がされているので、生徒は使いやすいのではないかと思います。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

歴史教科書については、8社が教科書を用意しています。

古川委員

最後に説明があった教育出版ですが、私も字の大きさや資料と本文のバランスが良いかなと感じました。あと、見開きの左側のページの真ん中あたりに、時代でこの単元はこの部分だというような表示が横長にあるのですけれども、それが新鮮で、子どもたちには歴史の中のどのあたりか把握するのに、視覚で感じられていいなと思いました。

ただ、やはり東京書籍のほうは、ごちゃごちゃした感じなく、全ての本文と資料が各々ぱっと目に飛び込んでくるような点を私は重要だと思っています。落ちついた色調でいて、なおかつ見やすい配色になっているなと思いました。また、目次の項立てがわかりやすいかなと思っておりました。なので、私は東京書籍がよろしいかなと思いました。

中川委員長
金丸委員

以上です。

いかがでしょうか。

実を言いますと、私はもともと遡りのほうが歴史の勉強としてはいいと思っているのですが、今回教科書を読ませていただいて、いかに遡りが難しいかということをよく感じました。できれば、もう少しデータを入れていただきながら、評価をつけずに、子どもたちが、例えば太平洋戦争の前などの時点でどういう政策をしたら戦争に飛び込まなかったかとか、そういうところが議論できるような教科書だといいなと思っていたのですが、やっぱり教科書ではそこは難しいなということがよくよくわかりました。そういう意味では、従前と同じ形のほうが無理がないと正直、感じております。

そうすると、どうも近現代の記述が詳しいからいいということには必ずしもならないなというところで、実は最初、ご報告を受けたときに、教育出版あたりが目になるかなと思ったのですが、そういう趣旨で、どうもそうではないという意味では、全体的に見やすいのは東京書籍かなということで、要するに、積極的に東京書籍というわけじゃなくてですね、やっぱり歴史の授業のあり方の難しさから考えると、無理のない範囲で、あとは先生の指導力で、うまく子どもたちのそういう考え方を引き出してほしいなと、こう思います。

中川委員長
教育長

はい。

歴史については、前回の教育委員会で資料として提示された展示会の報告の中でもかなり意見が多かったので、私は教科書会社から提示があった全体について、詳しく目を通しました。

それを通じた評価ですけども、まず、東京書籍は、上から大体5分の2ぐらいが写真や図で、下5分の3が本文、それから下5分の3のうち両端の5分の2ぐらいが資料で、真ん中の5分の3ぐらいが文章というレイアウトになっています。それは大変良くできていて見やすいと思いました。それから、東京書籍は、写真や図が豊富で、色遣いが良く、また、きれいで非常に引きつけられるという印象を受けました。私が特に東京書籍で良かったと思ったのは、第1章の歴史の流れを捉えようという5ページから18ページにわたる章の記述です。ここのところで歴史を学ぶ視点や方法をわかりやすく提示して、歴史を調べ、考えることの大切さを丁寧に説明しているところが、この東京書籍は良かったなと思っています。また、見開きページ下の確認のコラムだとか、章の終わりの、深めよう、あるいはその後の各章のまとめのページもよくできていると思いました。トピック的な話で、江戸のエコ社会といったことが取り上げられていて、この辺の視点もおもしろいなと思いました。また、今回新たに載せることになった領土問題が232ページから233ページにわたって非常に詳しく取り上げられていて、ここがこの会社の特徴的かなと思いました。全般的に、レイアウトが良くて、特に第1章の構成とかがよくできている教科書だなと思いました。

帝国書院は、レイアウトは東京書籍と似ていて、絵や資料が多く、大変見

やすく、これも使いやすい教科書だなと思いました。ただ、写真を見ると、白黒写真とかあるいは手書きの絵が多くて、全体の印象は、東京書籍と比べてやや地味かと思いました。あと、冒頭の歴史の捉え方、調べ方ということで、歴史の調べ方を提示しています。ここも、提示の仕方としてはいいのですが、扱いとしては普通かなと思いました。それから、見開きの確認しよう、説明しようというコラムも、いいと思いました。また、章末の学習を振り返ろうというページも、知識の定着に良いかなと思いました。領土問題は、246ページ、247ページに説明がありますが、読んだ感じが少しわかりにくい印象を受けました。あとは発展的内容も多くて、この教科書も学習の発展に繋げている面があるなというのが印象です。

教育出版は、レイアウトは東京書籍と似ていて大変わかりやすいという印象を受けました。また、人物の写真や絵も多いという印象です。特徴は、字がやや大きくて、見た感じは見やすいという印象を受けましたけども、その分情報の量とか内容がやや少ないのかなという感じでした。この教育出版は、いろいろな課題を切り取った特設ページが多くて、そこは、ほかの教科書と比べて大変充実しているなという印象でしたけども、逆に、全体の歴史の流れをそういう特設ページで中断してしまうところが結構あって、歴史の流れを理解する上では、少しづつ切りになってしまっているのかなという印象を受けました。それから、巻頭の歴史の移り変わりを考えようというところで、歴史を学ぶ視点を6ページから14ページにわたって提示していますけれども、自分たちで調べるという要素が若干弱いかなという印象を受けています。領土問題は、257ページ、1ページで紹介していますけれども、記述はやや少な目かなという印象でした。

清水書院は、上5分の1が写真や図、左右5分の2が資料という構成になっています。判サイズも他社のものよりもやや小さくて、持ち運びやすい反面、写真や資料がやはり若干少な目で、少しインパクトが弱いかなという印象でした。文字サイズは大き目で、確かに見やすいですけども、先ほどの教育出版と同じで、内容や情報量が若干少ないかなという印象です。それから、領土問題の記述も、178ページで、やや少ないかなという印象でした。

日本文教出版は、レイアウトは東京書籍と似て、大変見やすい印象を受けました。巻頭の歴史の捉え方が6ページから13ページにわたって記載されていますけれども、やや少な目かなという印象でした。領土問題は206ページで取り上げられていましたが、やっぱり若干わかりにくい印象を受けました。それから、この会社は本社が関西にあるということもあってか、図や写真に、どちらかという、関西の題材が多いのかなという印象を受けました。

自由社の教科書は、巻頭の歴史の捉え方というところに力が入っているなと思いました。特に、地域の歴史を調べるという部分が、20ページから24ページにわたって記載されていて、世界史とか日本史とかいう大きな話だけではなくて、身近な郷土の歴史をみずから調べ発見しようという視点が出てい

るところはおもしろくて良いと思いました。反面、写真や図、資料が他社と比べて少なく、ビジュアルに歴史イメージを捉え、考えさせる視点がやや少ないかなと思いました。それから、判サイズがやはり小さくて、文字による説明や解説が主体で、若干単調なイメージを受けました。領土問題についても、記述が少なく、ややわかりにくく思われました。一方、ここもエコロジー都市江戸というような、興味を引く話題がトピック的に取り上げられていて、ここはおもしろいなと思いました。あとは、言葉の表記の問題で、この教科書だけは、太平洋戦争を「大東亜戦争」と表記していました。多くの教科書は、戦前は「大東亜戦争」と言っていたが、今は「アジア太平洋戦争」との表現が使われてきているという注釈をつけつつ、「太平洋戦争」という用語を使っています。清水書院は、「アジア太平洋戦争」という用語を用いています。そうした中でこの「大東亜戦争」という呼称は、一般市民、区民の感覚として、やや違和感があるのかなという印象を私は受けました。

育鵬社は、レイアウトは東京書籍と似ていて、大変見やすくいいと思いました。また、写真や資料と文章のバランスもよくできていて、なかなか見やすく、受け入れやすい教科書だと思いました。巻頭の6ページから12ページと、巻末の281ページに、歴史を学ぶ視点や方法が提示されておりますけれども、歴史を調べ考えるという視点は、東京書籍と比べると若干弱いという印象でした。領土問題についての記述も割と少なく、わかりにくいかなと思いました。

学び舎は、大判で、やはりこれほど大きくなると持ち運びに不便を感じるように思われました。また、巻頭の歴史を学ぶ視点の記載は4ページから9ページにありますけれども、ここもやや物足りなく思いました。章の下、節の見出しがスローガンのような表現になっています、この教科書は。インパクトがあって、物語として読み解く歴史としてはおもしろいと思いましたが、教科として歴史を事実の流れの中で理解していくという上では、かえって混乱してわかりにくいのではないかというのがこの学び舎の教科書の私なりの印象です。

トータルに見て、レイアウトとか内容とか、歴史を学び考えるという視点がかかなり強くわかりやすく出ていた東京書籍がよろしいかなと私は思いました。

以上です。

ありがとうございました。

それぞれ、東京書籍は記述内容も豊富でということが出ておりましたが、私はほかの視点から見てみたのですけれども、なぜ歴史を学ぶのかというのを前書きから見ますと、こちらの教育出版の前書きのほうが、今なぜ君たちが歴史を学ぶのかというのが短いメッセージの中によく出ているなと思いました。その説得力があるし、それから、現代史というのは、すごく勉強していくと難しいのですけれども、その記述が多いということも1つの要素で

中川委員長

はないかと私は思いまして、生徒にも使いやすいという評価もこちらの報告書の中にも挙がっていますから、教育出版と東京書籍かということでも迷いました。先生方が扱いやすいのだったら、東京書籍にしてもいいのかなとは思ったんですが、教育出版のほうにも心が引かれました。

あと、学び舎の教科書ですけども、あれも何度も何度も、高校の先生方を中心にして、子どもたちにこういうことを教えたいということでつくった教科書で、やっと検定を通ったといういきさつがあるようです。こういうふうには作られた教科書というのがあることも、心にはとめておきたいなと思いました。もう少し内容が濃ければいいんじゃないかと思うのですが。

ということで、大体出そろったかなと思いますが。ここでのよろしいですか。

(了 承)

中川委員長 それでは、歴史的分野の教科書は東京書籍を採択の候補とすることでよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長 では、全員一致で東京書籍を候補といたします。

指導主事 では、続きまして、公民に参ります。

公民、全部で7社があります。その中で評価の高かった3社をここで紹介させていただきます。

まず、東京書籍になります。内容の選択としましては、これは適切である。そして教材・資料ともにわかりやすい。非常に生徒に使いやすく、わかりやすい表現になっています。資料も生徒に配慮した資料が多くなっています。構成・分量としては、内容と資料のバランスやレイアウトがとても良く、そして、政治の分野の構成が国から地方の順番で構成されていますので、生徒にわかりやすいのではないかという意見がありました。表記・表現としましては、標図などが豊富にあって、色遣いがよく、大変見やすくなっています。色遣いの話は、先ほどからもありますとおりに、色がきつくない、そして非常に見やすいという配色になっていて、すごくいいのではないかという意見がありました。

日本文教出版です。内容の選択としましては、議論の土台となるデータの読み取り、これはブレインストーミングというのが載っており、これは何かをディスカッションしたりするのに、話題につながりやすい教材となっています。構成・分量としましては、本文と表などの資料や表というのがバランスよくレイアウトされております。発展・補充教材の扱いとしましては、裁判員裁判のシミュレーションがあり、これがすごく良いのではないかと。そして、写真や資料が時事的で、現在のさまざまな事象に興味・関心を持たせやすくなっておりました。この教科書の特徴としましては、生徒に話し合ったり、議論をさせたりするのによいのではないかという意見がありました。

帝国書院です。構成・分量としましては、経済の分野が身近なお金から入っているという部分では、生徒にとって取り組みやすい内容になっていま

す。経済としましては、まず、身近なところから入るのがすごくわかりやすいという意見があります。帝国書院はそのあたりが非常によくまとめられておりました。表記・表現としましては、写真や図が大きく扱いやすい、そして、比較の見やすい大きさになっています。発展・補充教材としましては、課題の追求に関するトピックなど、生徒の主體的な学習を促す工夫はされておりました。

以上です。

中川委員長

ありがとうございます。

公民につきまして、ご意見いただきたいと思います。いかがですか。

金丸委員

これもどれがいいかというのは私自身としてよくわからなかったのですが、見やすさという点からすると、東京書籍が見やすかったと感じました。

中川委員長

古川さん。

古川委員

帝国書院なのですけれども、文中にというか、学習を発展させていくコラムや、「未来に向けて」、「トライアル公民」ですが、学習を発展させていくページが工夫されていて、そういう点はいいなと思ったのですけれども、やはり子どもたちの見やすさで言うと東京書籍で、子どもたちにはいろいろな資料を視覚的に捉えて、抵抗なく教科書を読み進めていってほしいので、教科書を広げたときに、とりあえずちょっと読んでみようかなという気になる、色調やレイアウトのいいものにもどうしても目が行ってしまいます。東京書籍が良いと思いました。

中川委員長

どうぞ。

教育長

この公民も、展示会の関心が高かったので、全社の教科書について細かく検討しました。

まず、東京書籍は、やはりレイアウトが良くて見やすい、また、記述と資料のバランスもいいと思いました。そして、教材、資料が豊富で、色遣いもよく、見やすくわかりやすいという印象を受けました。また、公民を学ぶ視点や方法を丁寧に紹介しています。特に第1章とか終章のよりよい社会を目指してというところが充実しているなと思いました。また、深めようだとか、公民にチャレンジだとか、やってみようなど、話し合いに導く仕掛けの箇所が多く、課題設定も多岐にわたっていておもしろいと思いました。例えばコンビニの経営者になってみようだとか、日本のエネルギー政策のこれからという特設のページがありますけれども、その辺は大変おもしろいと思いました。見開きのページの中の公民にアクセスというコーナーで、事項をわかりやすく説明しているところも良いと思いました。また、見開き右下の椅子マークのコーナーで、学習内容の定着を図っているところも良いと思いました。さらに、領土の記述もかなり丁寧で、171ページ、196ページ、197ページにわたってかなり細かく記載されているという印象でした。ただ、80ページのところの政党の紹介で、当時の写真が出ていますけれども、そこはすぐに陳腐化してしまうのではないかなという思いでした。

それから、日本文教出版は、レイアウトが良く、大変見やすい。また、記

述と資料のバランスも大変いいと思いました。さらに教材・資料が豊富で、色遣いもいい。また、公民を学ぶ視点や方法を丁寧に紹介していると思いました。特に、第1編とか最終章の第5編、私たちの課題というところが、丁寧に公民を学ぶ視点等を紹介しているいいなと思います。また、チャレンジ公民、アクティビティ、政治ナビ、経済ナビ、国際ナビ、あすに向かってなど、議論の素材を投げかけ、考えさせる仕掛けが多く取り入れられているところもいいと思いました。ただ、こうした課題の提起がたびたび取り上げられて、ページの流れをとめているような印象もあって、全体的に少しごちゃごちゃしている印象を受けました。また、個別的なトピック課題としては、112ページの裁判員裁判シミュレーションだとか、202ページの地球温暖化施策ロールプレイなどは、わかりやすく良いと思いました。また、見開き下の学習確認の活用で知識の定着を図っている試みもよいし、その辺のところが評価できると思いました。一方、領土の記述は179ページで割とあっさりしているなという印象です。また、図表や資料は多い半面、やや細かくて、ごちゃごちゃしている印象を受けました。

それから、帝国書院は、写真や図が大きく見やすい、使いやすい印象です。一方、構成、レイアウトはややあっさりしていて、単調な印象を受けました。公民を学ぶ視点、方法が、第5部のよりよい社会を目指してで紹介されていて、ここも評価としては妥当なところだろうと思いました。また、見開きでの右下コーナーの確認しよう、説明しようで、学習内容の定着を図っているととても良いと思いました。さらに、トライアル公民、未来に向けてなどの発展学習を促す工夫も見られるところも良いと思いましたが、若干他の教科書と比べて物足りない印象を受けました。また、トライアル公民のテーマが、身近な暮らしに向けられている点がおもしろいと思いました。

それから、教育出版は、レイアウトがあっさりしていて、ごちゃごちゃした印象がなく、大変見やすいという思いでした。また、見開き2ページの中で、いろんな事項をわかりやすくコンパクトにまとめていて、この2ページを開けば、その項目の内容が一目でわかるという構成になっていて、わかりやすく好感が持てました。また、公民を学ぶ意義、視点、方法を、どの教科書も序章と最終章で提示していますけども、教育出版はこの部分がややあっさりしているかなという印象、また、素材を投げかけ、考え、議論を促す仕掛けがやや少ないかなという印象でした。

清水書院は、判サイズが小さい分、文字が主体で、写真や図表がやや少ない印象を受けました。また、色遣いが単調で、視的なインパクトにやや欠けるという印象でした。さらに、考えさせ、議論させるという仕掛けも若干少ない印象を持ちました。

自由社はカラフルで親しみやすい印象でした。一方、判サイズが小さくて、文字主体の構成なので、写真や資料がやや少ない印象を持ちました。また、考えさせたり議論させたりする素材の提供がやや少ない印象を持ちました。

次に、育鵬社ですが、レイアウトは東京書籍と似ていて、大変見やすいものです。また、写真や資料等、文章のバランスも良く思いました。章の構成を見ると、現代社会の課題や見方、考え方を取りまとめた序章に力が入っていて、例えばこの部分、東京書籍は28ページですけども、育鵬社は34ページにわたって記載されていて、この現代社会の課題や見方を説明するところの記載内容は充実していると思いました。一方、その分、何が少な目かというところ、政治と社会の記述が、東京書籍と比べてやや少ない印象です。東京書籍は46ページ、育鵬社はこの部分が38ページです。特に、身近な政治である地方自治のページが、東京書籍は16ページですが、育鵬社は8ページと、自治に携わる者としては、この地方自治の取り上げ方がややこの教科書は少ないのかなという印象でした。一方、「やってみよう」、「考えよう」という特設ページないしコーナーがあって、ここは興味あるテーマを設定していて、生徒に議論を投げかけており、良いつくりになっていると思いました。例えば144ページから145ページ、人は何のために働くのか、また、1964年と2020年の東京オリンピック・パラリンピックの時代など、興味ある素材を投げかけている印象を受けました。ただ、終章は、視点を内閣総理大臣になったと仮定しての国づくり構想として展開していますが、身近な自分に引きつけて、今まで習ってきた公民の考え方を踏まえて、自分とこれからの社会を考えさせる展開であったのでも良かったかなと思いました。

以上、トータルに見て、全般的なバランスから、東京書籍がいいかなというのが私の感想です。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

全体を通して、私が良かったと思う教科書から先に言わせていただくと、公民というのは社会の一員としてどのように動いていったらいいかとか、そういう問いかけとか、どう行動したらいいかというヒントが必要だと思うのですが、それについては、私は教育出版が、文字が大きいかもしれないけれども、文字の大きさではなくて、内容には問題ないと思いました。原発問題をこれからどうするかということも出ていましたし、教育出版が私はいいと思っております。

あとは、清水書院も、公民とは何かというのがとてもわかりやすかったし、レイチェル・カーソンが一番初めに出てきて、環境問題に取り組んだ先駆者を取り上げるなど、公民としての心がまえもきちんと力を入れているなと思ひまして、清水書院もいいかなと思ひました。

それから、さっき教育長もおっしゃったんですけども、東京書籍には今の日本の主な政党ということで、政党とその党首の写真が出ていて、これから4年間使う教科書として通用するのだろうかと思ひました。

そういうこともあって、私は教育出版を推薦させていただきます。

ほか、よろしいでしょうか。

(な し)

中川委員長 先生方が使い勝手がいいということで、東京書籍になるなら、それはそれでよろしいと思います。

よろしいですか、採決して。

金丸委員 今日、候補を一つに絞らなきゃいけないのでしょうか。委員長がおっしゃっている以上、私としてみれば、もう一回教育出版を見てみたいと思うのですけれども。

東京書籍は見た感じでとても見やすかったということで、東京書籍かなと思っていますけれども、ただ、今のようなご指摘を受け、私の印象だけで進めるのは、私としては躊躇があるので、できればもう一度比較させていただけるとありがたいなと思います。

中川委員長 では、最後に採決しますか。

金丸委員 今、採決をするのであれば、とりあえず私は自分で推したものに手を挙げますが、私の言いたいのは、そうではなくて、1つだけを候補書にしなればいけないかどうかということですね。2つ候補にするということは可能かどうかということをお聞きしているんです。

中川委員長 採決にあたっては、多数決で1つに絞ることになっていますので。

金丸委員 わかりました。

中川委員長 では、こちらの東京書籍を候補とすることよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長 3対1ということで、よろしいですね。

では、社会の公民分野は東京書籍ということにさせていただきます。

ここで、10分程度休憩をさせていただきます。

(休憩 16:00 ~ 16:12)

中川委員長 それでは、会議を再開します。

次は、数学に移ります。

指導主事 それでは、数学です。数学は全部で7社ございます。この数学の教科書を選定する上で重視した点といたしましては、現学習指導要領の改善ポイントの数学的活動に主体的に取り組んで、数学的に考える力を育むこと、そして、数学の良さを知り、数学は生活に役立つことや数学と科学技術との関係などについての理解を深めて、事象を数理的に考察する能力と態度を養うということを重点としてみました。こういった視点で教科書を見た結果、7社どれも非常に工夫されていました。その中で、特に調査委員会として評価の高かった2社について説明させていただきます。

まず、数研出版でございます。その中でも重視した項目というのは、1の内容選択、2の構成・分量、それから5の発展・補充教材の扱いです。この観点1、内容の選択と発展・補充教材に関連した特徴として、巻末に数学探検があります。教科書のあらゆる場面で、社会との繋がりが工夫された教材が選択されている。そういった特徴がございます。これによって、生徒が数学の良さを十分に感じるができるかと考えております。また、構成・分量、それから同じく発展・補充に関連した特徴として、既習事項の学び直し

とか、発展的な学習の教材の工夫がある、個に応じた指導が非常に充実しているということが言えると思います。また、生徒の視点に立ったわかりやすい工夫が見られると考えております。数研出版では、巻頭、最初にクイックチャージとありますが、算数の復習がずっとそこにはあります。小学校の既習事項が整理されています。その点から学び直しができるということが出来ます。

それから、ノートづくり方、これはすぐ最初の1ページ目を開いたところに、1年生の1ページ目を開いたところ、ノートづくり方というページがありまして、生徒の視点で具体的に整理がされています。そういったことが大事にされているというところを重要視もいたしました。学習の振り返りをしていくには、ノート作りが大切になってきますので、この観点から数研出版が良いという評価を得ていました。

啓林館です。啓林館は観点の1、2、そして5に関連して、数学の良さが感じられる教材の質と量、学び直しができる工夫、発展的な学習が可能な資料の工夫というのがあります。数学的な活動を通して、自分の言葉で伝えたい、考えをまとめたりするなどの場面が繰り返し設定されていて、言語活動の充実も図られていることが特徴になっています。また、別冊に関してですが、教材の選択から質が良いと思います。数学が社会でどのように生かされているのか、また、数学をどのように活用していくのかということが強くイメージでできます。生徒の主体的な学びを意識した教材となっています。啓林館についても、ノート作りについての掲載があります。

この啓林館と数研出版は、どちらも甲乙つけがたいということがありますが、今回は学習指導要領が大きく変わっていないことから、これまで本区の数学の教員が教材研究、または指導方法、教材等、蓄積している部分、そしてこれまでの学習の継続性の面から、調査委員からは、数研出版を推す声が多かったです。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

それでは、いかがでしょうか。

古川委員

私は数研出版がいいと思いました。まず、1番のポイントが、生徒が解き方や考え方を順序立てて理解を深めながら読み進められる構成になっている点です。

教科書展示中のアンケートを見させていただいたのですが、そこにいろんな意見が出ておりましたが、その中の1つに、私が今申し上げたことと同じように考えていらっしゃる方がいて、その表現が、「読み進めていく子どもたちの意欲を保てるようなレベルを感じた」とあって、この表現の仕方に、なるほどなと思いました。子どもたちが自分で学習して、また、振り返りとか復習等に使うときに、自分で進められる、その意欲を保てるレベルだなと思いました。

ほかは、今ご説明にもありましたが、小学校の復習が簡単にまとめられて

いて、1年生の教科書ですが、振り返りの指示もついているので、学習中にも復習や確認ができるのではないかと、発展的な部分で言えば、チャレンジ編の問題集もついていますので、個に応じたレベルで展開できるのではないかと思います。

以上です。

中川委員長
金丸委員

ありがとうございました。

私はこの2社に関しては、どちらがいいということと言えないぐらいに内容が互いに充実していると思っています。だから、そういう意味では、先ほどのご報告の中で、2つのポイント、要するに継続性の問題と、もう一つは、6番に書いてあるデジタル教材との連携という、その2つをどの程度見るかということだと思えます。すみません、私自身がデジタル教材そのものがどういうものかがもう一つ理解できていないので、それだけ少しご説明ください。

指導主事

デジタル教材というものですが、本区は各校にタブレットを導入して、そちらを活用しまして、教員が目の前に実際の教科書と同じ部分を映し出しながら、生徒の興味関心を引き出しながら授業を進められるというものになっています。

統括指導主事

今申し上げたように、タブレット型のパソコンもそうですが、デジタル教科書のソフトがこの数研出版ではありまして、これを拡大して、教室の中でぱっと提示できるというところが整っております。そういった意味で、デジタル環境が良いということが1つ挙がっております。

金丸委員

ありがとうございます。そうであるとする、要するにそういう形で、継続性の問題というのに繋がるのですが、数学の担当の先生方は、タブレットなり何なりの処理についての技術を学んで、そのままと使えるけれど、新しくすればまた一から覚え直さなければいけない可能性があるという、こう理解してよろしいのですか。

統括指導主事

技術的なものについて、大きく差はないだろうと思いますが、今整えたものについて、また新しく、そうした環境については整え直す必要があるということでございます。具体的にはソフト等を購入したり、また、操作手順等も変わるでしょうから、そういったところを新たに習得するという必要がございます。

金丸委員

ありがとうございます。そうであるとする、やっぱり継続性に重きを置かざるを得ないだろうと私は思っています。私は、先ほど言いましたが、これはどちらを選んでもおかしくない、教科書としては、と考えておりますので、そういう判断です。

中川委員長
教育長

お願いいたします。

私も、第2回の選定委員会の会議録のこの部分を見させていただいて、まず、調査委員会の中でこの数研と啓林館が2社が特出しているという評価をしています。その上で、数研については、現在使っている、また、それに付随してデジタル教科書をどの学校も使っている、また、プリントなどの補足

的な教材を、現在千代田区が数研のものを選んでいて、これを継続して使えるということ。さらに大幅な学習指導要領の改訂もない中で、継続性ということを中心とすると、選定委員会としては、数研を引き続き使用したいという、この意見、判断は妥当なものだと思います。ですから、私はこの数研出版で数学はよろしいと思います。

中川委員長

数学に関しましては、いろいろな状況を見ますと、はっきりしているのではないかなと思いますので、候補を決めたいと思います。

それでは、数研出版を候補とすることよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、数学は全員一致で数研出版を候補とさせていただきます。

次に、理科ですね。

指導主事

それでは、理科についてご説明させていただきます。

理科は5社ありますが、評価の高かった3社についてご説明させていただきます。

まず、東京書籍でございます。観点の1として、科学的な見方、考え方、科学的に探求する能力を養えるような工夫がなされているという報告がございました。特に、原理や法則の理解を図れる図解の工夫が随所に見られ、生徒に科学的な説明をすることのできる内容になっているとの報告がございました。

次に、観点の2つ目、観察、実験についてでございますが、簡潔に書かれておりますが、新たに実験のプリントを作成せず、授業でそのまま活用できる扱いやすいつくりになっております。観点の3つ目といたしまして、表記についてです。文字の大小や濃淡、写真や図の適切な使い方など、生徒に受け入れやすい工夫がされております。特に、1年生の教科書は、2・3年生の教科書よりも文字が大き目になっており、中1ギャップにもよく対応しているという報告がされております。さらに、まとめや章末問題が充実しており、通常の試験にも対応できる内容になっております。これは、応用的、発展的な知識を身につける上で良い内容であるという報告があります。

次に、大日本図書です。こちらは基礎的・基本的な内容が習得しやすい形になっております。実験、観察の部分についても、実験を通じて課題解決を図れる構成になっております。また、色遣いなども見やすく、学習支援が必要な生徒にも適していると思われま。発展・補充教材につきましては、自由研究や課題研究、博物館の紹介など、生徒の興味を引く内容が適所にあり、学習意欲を高める工夫がされているとの報告があります。

3社目といたしまして、学校図書ですが、こちらも基礎・基本を主に、優れた内容になっております。また、キャリア教育や科学を仕事に生かすというページが幾つかあり、科学的な仕事にこのように結びつく点が優れているという報告がありました。

理科については以上でございます。

中川委員長

ありがとうございました。

それでは、理科についてご意見をいただきたいと思います。

お願いします。

金丸委員

この理科も、実は私は見せていただいて、東京書籍と大日本図書、甲乙つけがたいと思いました。ただ、レンズの屈折の図などを見ると、言ってみれば、体操で足先まできっちりと伸びているか伸びていないかの違いですけれども、そういう意味で、若干目が行き届いているかなという意味で、東京書籍なのかという感じを受けます。

中川委員長

わかりました。

古川委員

私は東京書籍が良いと思いました。まず、写真や図や絵がとても鮮明で、見やすい。読んでいてわくわくしてくるような教科書だなと思いました。「調べよう」、「まとめ」、学びを生かして考えようなどの提示の仕方がわかりやすく、ステップを踏みながら学習をスムーズに進めていけるのではないかと思いました。

東京書籍がいいと思うのですけれども、1点少し気になることがありました。3年生の256ページですけど、地震や震災の記述のところですが、「釜石ではどう行動したか」というコラムがありまして、そこについて教科書展示会のアンケートの中に、事実とは異なる記述ではないかとか、地元の方が市民はそう思っていないなど、幾つかご意見がありまして、少しそこが気になりました。

以上です。

中川委員長

何かありますか、それについて。

教育長

理科については、この選定委員会の評価の高かった、まず東京書籍ですけれども、私は写真の選択や使い方などが、まるで科学雑誌を見ているみたいで、非常にビジュアルに興味を引く編集がなされていて、よくできた教科書だと思いました。また、実験の目的や方法などが、はっきりわかりやすく記載されています。さらに、単元の最後に、学習内容がよく整理されているのに思いました。

一方、大日本図書の教科書は、どちらかという、実験や実習を重視した編集になっています。発展学習のページが多く、自由研究を進めるのにより手引きとなっているというふうに私も思います。一方、文字遣いがやや穏やかで、写真やイラストを見ても、東京書籍と比べてやや穏やかな感じがしました。

一方、学校図書は、ページ、ページによって、見開きで非常に大胆な写真を使っていて、その部分は非常にインパクトがあって、興味を引きつける編集がなされていると思いました。また、科学と仕事を結びつけて解説するページも良いと思いました。一方、解説部分が多い半面、実験や実習の記述が、他者の教科書と比べて、ややあっさりしているかなという印象を受けました。

それから、先ほど古川委員からあった「釜石の奇跡」ですけども、私が、しばらく前の新聞報道で見たところでは、当初「釜石の奇跡」という形で取

り上げられましたけれども、実際釜石では、これは奇跡と呼ばれているけれども、実際は奇跡ということではなくて、きちんとした事前の勉強なり学習なり、あるいは訓練なりの成果があらわれたもので、決して奇跡というものではないと。また、釜石の中のある学校では、職員の方がきちんと職責を果たされる中で、最後まで学校に残って、行方不明になっている。また、児童ら、子どもたちが亡くなっている学校もあるという中で、奇跡と称賛されることに対して、釜石市の市民あるいは遺族の中にもいろんな思いがある中で、最近「釜石の奇跡」という言い方はしないことにして、「釜石の出来事」という表現をするとしているという記事を読んだ記憶があります。この展示会でこの意見を書かれた方の本意はわかりませんが、私も今後この教科書を採用するにしても、この辺の言い方については、学校の先生が、そういった釜石市の今の状況を踏まえて、留意しながら教える必要があると思います。

中川委員長
指導主事

はい。

先ほどご指摘いただきました釜石の件ですが、この件に関しましては、さまざまな意見があるということは重々承知しております。これは1つのコラムとして掲載されていますが、この震災関係の指導といたしましては、この教科書以外にも、東京都からいただいています「地震と安全」という副読本等を活用しまして、震災関連の指導としましては、そちらで適切な指導をしておりますので、それは申し伝えておきたいと思います。

以上です。

中川委員長

そうですね。先生方に重々注意して指導していただければいいと思います。理科については、よろしいでしょうか、その意見は。

(了 承)

中川委員長

では、これについて採決をしたいと思いますが。この東京書籍を採択の候補とすることよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

では、全員一致ということで、東京書籍を採択の候補とさせていただきます。

次に、技術・家庭の技術を先にさせていただきたいと思います。

指導主事

それでは、技術・家庭の技術について報告させていただきます。

まず、開隆堂出版です。内容についてですが、木工のものづくりの分野で、修正方法、例えばかんなを失敗した場合や間違っって穴をあけてしまった場合という、よく生徒が失敗するような場面の修正方法が掲載されているのが非常に役立つという報告がございました。特に、生徒自身で教科書を見直し、修正できる工夫がされている部分が評価できるという報告がございました。

構成や分量については、ものづくりの部分とコンピューターの部分若干多目で、エネルギー変換や生物育成の部分若干少な目という、比較的オーソドックスな構成となっていますが、実習例や活用例が多く記載されてお

り、十分な分量だという報告がされております。使い勝手の部分につきましては、さまざまなマークをつけて、例えば実験する部分、安全に配慮する部分等、13のマークが用いられ、実験や安全に配慮する等を示しています。また、レイアウトとあわせて見やすい表記の工夫がされております。使用上の便宜では、見開きページの上部に、例えば切断する、切削するなど、何を学習するページで、どういう目標や狙いなのかが生徒にわかるような表記がされています。発展的な内容については、巻末にあるコンピューターの操作が充実しているという報告がございました。

次に、東京書籍についてです。分量・構成についてですが、教科書の大きさが以前よりも大きくなり、内容量も多少増加しているという報告がございました。特筆すべき点として、「技術の匠」というコラムがございましたが、いいという報告があります。領域別としては、やはり材料と加工に関する技術と、情報に関する部分が多く、エネルギー変換と生物育成がそれに続くという形の構成になっております。表記上の工夫については、開隆堂と同じく、こちらは17のマークとキャラクターが用いられています。生徒は興味を持ちながら、非常に楽しく見られるという意見と、少しマークの数が多いのではないかという両方の意見が出ております。また、エネルギー変換の部分については、クランク機構、物の動きをあらわす機構の部分で、実際のクレーンであったり、遊具であったり、実物に即した写真と表記で動きがわかりやすく示されて、内容を伝えやすいという特徴があるとの報告がされています。学習目標も各章ごとに設定されており、巻末資料のソフトウエアの使い方もやはり同じように充実しているという報告がございました。

技術は以上2点でございます。

中川委員長

ありがとうございます。

技術につきまして、ご意見をいただきたいと思えます。

古川委員

まず、教育図書についてですが、文章と資料の配置がすっきりしています。余白が多く、その分見やすかったです。あと、口絵の写真や絵が壮大でわくわくする内容でした。例えば、1年生は、宇宙エレベーターだったと思うのですが。

東京書籍については、文章と写真の配置がすっきりしていました。図や作業の工程写真などがわかりやすい構成表示になっていると思います。章末の学習のまとめは、1、学習を振り返ろう、2、学習したことを確かめよう、3、生活に生かそうと、段階を踏んでいることと、あと、大切な用語一覧は、学習したことを復習したり、深めていくのによくできているなど感じました。

私が一番良いと思ったのが開隆堂です。開隆堂の教科書は、説明が丁寧で、資料が多い印象でした。見開き1つの単元展開で、やはり見やすくわかりやすい構成になっているなど思いました。ページ下の豆知識も興味深かったです。巻末資料についても、他社と内容はほとんど同じかなとも思うのですが、資料として用いるのに、やはり見やすくなっていることが重要だと

思い、開隆堂の巻末資料も、ぱっと資料として用いやすい、簡潔にまとまったものだったと思います。開隆堂が候補としてふさわしいのではないかと思います。

中川委員長
教 育 長

ありがとうございました。

選定委員会の会議録を見ると、開隆堂と東京書籍の2社について報告があります。この2社を見比べると、私は東京書籍の教科書は、ぱっと見たときに、ごちゃごちゃしてなくて、割と余白も多かったです。非常に見る分にはわかりやすい教科書だなという印象を受けました。ただ、選定委員会の意見の中で、開隆堂は、例えば失敗したときの修正の方法が載っていて良いとか、あるいは目標や課題が明示されていてわかりやすいという形で、教える側としては、開隆堂のほうがいろんな細かいところに気を使った教科書になっているという評価になっています。

この技術は、教科として、教科書で教えるというよりも、例えばものづくりにしても、先生が子ども達に教科書を教えるのではなくて、自分が教える中で教科書を補助教材として使うような教科だと思います。そういう技術という教科の特徴を考えたときに、ぱっと見てわかりやすいというよりも、教える側が教えやすい、かなり気を配った編集がなされている教科書のほうが結果的にはよろしいのかなと思ひまして、最終的には、選定委員会の評価の高い開隆堂の教科書で私はいいと思います。

中川委員長
金 丸 委 員

ありがとうございました。

私も技術というのは、本来的には、まさに実際に体を使ってものを作っていくことがベースなものですから、教科書でどうこうというよりは、指導する教師の使いやすい材料として教科書があるのだろうと思っておりますので、教育長の意見と全く同じでございます。

中川委員長

ありがとうございます。

現場の先生方が使いやすいということでは、開隆堂ということですね。

では、意見は出尽くしたと思います。

開隆堂出版の教科書を採択の候補とすることでよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、技術・家庭の技術の部分に関しましては、全員一致で開隆堂出版の教科書を採択の候補といたします。

次に、技術・家庭の家庭の分野ですが、こちらについて説明お願いいたします。

指 導 主 事

それでは、続きまして、家庭について報告させていただきます。

まず、1つ目ですが、開隆堂出版についてご説明させていただきます。

開隆堂は、制作や調理といった実習の内容が充実しているという報告がございました。特に調理実習については、作業の流れ図があり、時間の目安を立てやすいという特徴があります。また、食品の栄養素と概量、摂取量の目安という見開きがありまして、栄養素から実際に右の食品まで、横並びに見やすく、どれをどれくらい摂取すればよいか、生徒に一目で理解できる点が

評価できるという意見が出ております。また、表記・表現の観点について、調理の手順のポイントなども写真を多用しており、わかりやすい説明がされております。被服の分野では、衣類についている洗濯マークの説明について、JIS表記とISO表記がともに充実して掲載されており、これからの時代に即した教科書であるという報告がされております。

続きまして、東京書籍です。こちらも、調理、被服ともに写真を多く載せており、ポイントもわかりやすく表記されております。分量も調理の手順、被服実習例ともに適切であり、実習で使いやすい内容となっております。また、ページのレイアウトや文字の大きさなども適切であると報告されております。さらに、他教科との関連として、小学校で学習した部分や他教科のリンクというマークが随所にあり、学習の関連が図りやすくなっております。また、全体的に色の使い方も目に優しいといった報告がされております。

家庭については以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

それでは、家庭につきましてご意見を4。

古川委員

家庭科についても開隆堂の教科書を候補として挙げたいと思います。まず、見開きがうまくまとまっていた。今、ご説明にもありましたが、食品の栄養素と概量、摂取量の目安の表についてですが、見開きに全てが組み合わせ表示してあるのは画期的だと思いました。他者は少し分散されている感じです。やはり資料の構成の仕方で、理解のスピードが、全体を把握するスピードが変わってくるなと思いました。

調理実習のページについてですが、同じように見やすく、手順が簡潔に表示されている教科書もあるのですが、開隆堂の教科書は特に、例えば温かみがあって、手順もわかりやすくなっています。組み合わせ調理手順もとても参考になるなと思いました。ただ、これも他社にも載っているのですが、開隆堂は書面の構成がよりわかりやすく載せてあるかなと思いました。

以上です。

中川委員長

ありがとうございます。

金丸委員

私は家庭科はよくわからないのですが、これも、先ほどの技術と同じで、実際に自分でものを作るというのがやはり本来のベースだと思うんですね。そうであるとすると、やはり教師が指導しやすい教科書が一番いいんだろうと思いますので、そういう意味では、開隆堂出版なのかなと思っています。

中川委員長

ありがとうございます。

教育長

私も同意見です。3社の教科書を見比べると、割と開隆堂は写真などが多くて、イメージ的に非常にわかりやすい印象を受けました。

一方、東京書籍は、若干字のサイズも大きい目で、読んでわかりやすい印象を受けます。

逆に、教育図書は、かなり細かいいろんな資料とかデータが載っていて、

情報は満載だという印象を受けます。

この3つの教科書の中で、教える側として、教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるという立場に立ったときに、現場の先生方が開隆堂の教科書が、いろんな意味で、教える側からすると使いやすいということですから、私は開隆堂ということによろしいと思います。

中川委員長

調理にしても、本当に写真を見ればすぐできるような工夫がなされていますし、とってもいいのではないかと思います。これも先生方が使いやすいということで、皆さん意見が一致していると思いますので、採択の候補は開隆堂出版ということで、よろしいですか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、家庭は全員一致で開隆堂出版ということにいたします。

次に、音楽に行きたいと思います。

統括指導主事

それでは、音楽についてご説明させていただきます。

音楽につきましては、「一般」として、教科書会社2社、教育芸術社、教育出版、それから、「器楽合奏」として、やはり芸術社と教育出版、それぞれ2社が教科書をつくっております。それぞれ1社ずつ選定ということで、よろしく願います。

それではまず、一般についてご説明をさせていただきたいと思います。

まず、教育芸術社でございます。こちらにつきましては、3年間を通して、それぞれ楽曲の配置の仕方が適切であると、これが選定委員会においてはまず第一の理由でございました。観点の1でございますけれども、まず、目次のところに学習の目標が記述されており、非常に少ない時数の中で、何を学習するのか、これが明確になっているということでございます。それから、音楽を形づくっている要素が非常に重要でございますが、そのことについて、各楽曲で要素の何を重点的に学ぶのかということが記されております。また、鑑賞曲においては、作曲者や関連する内容の記述が適切に、また、ある程度の量がある。それから、また、日本の音楽に関しては、学習指導要領上に示されております「序破急」というものについて触れている点が非常に工夫されているということでございました。また、観点3でございますが、楽典というものは、生徒にとって非常に学習しにくい分野でもありますが、この楽典に関する内容が非常にコンパクトにまとめられていて、生徒の学習の補助に、また、授業中必要に応じてぱっと開いて確認することができるという点が良いということでございます。それから、第3学年で取り扱う音楽史でございますけれども、教科書の中では、「耳でたどる音楽史」という題名が打たれておまして、西洋の音楽とか邦楽というものが上下で比較できる、それから、それぞれの西洋の作曲家の顔写真が代表作品等と併せて載っている。また、耳でたどるということで、中世やルネッサンスの音楽を聴くにも非常に重要な資料という形になっております。

もう1社の教育出版でございますけれども、これは全体的にどの曲も、イラストではなく写真を用いて、また、全体に明るく、各楽曲のイメージを持

たせやすいという特徴がございます。観点1では、先ほども出ましたけれども、音楽を形づくっている要素、また、それに関する特別な説明が載っていて、楽曲に照らし合わせながら学習するということができます。観点5では、鑑賞曲で取り扱っている曲が近現代の作曲家、ムゾルグスキーであるとカリムスキー・コルサコフとか、また、ラベル、余りなじみがない作曲家であるかとは思いますが、そうしたものも取り扱っておりまして、非常に興味深いということでございます。

ただ、音楽につきましては、年間35時間という非常に限られた授業時数でございますので、ここに載っていても、これを全て取り扱うのは難しい、先ほども話題になっておりますが、教師が選びながら、必要に応じて使うという形になるかと思えます。

2者を比べて、楽曲の配置ということで一番大きく変わっているというのが、スメタナの「モルダウ」、「ブルタバ」と言いますが、この曲が、片方では1年生で、もう片方では3年生で取り扱うということで、非常に大きく異なっております。この「ブルタバ」というのは、音楽史の中では、国民学派という非常に特徴のある曲でございますし、交響曲を学ぶ前に、交響詩を勉強しなければいけないという、非常に扱う意味では少し難しい、どこで教えるかということにもかかわってきますが、音楽史の流れから、また、交響詩という曲の扱いからも、第3学年のほうがふさわしいとのことございました。そして、それがそのように取り扱われているのが、教育芸術社であるということでございます。

まず、一般については以上でございます。

中川委員長

ありがとうございます。

では、一般につきまして、教育芸術社と教育出版と、2つございますが、ご意見をお願いいたします。

古川委員

教育出版の歌唱や鑑賞の曲のページの背景にある写真が、曲のイメージを広げていて、とても素敵だなと思ったのですけれども、教育芸術社を候補として挙げたいと思います。

今ご説明の中にもありましたが、音楽学習マップは、扱う材料の目標を簡潔にまとめてあると感じます。あと、口絵がいろいろな音色を感じさせる写真になっていて、センスを感じました。あと、鑑賞、創作の内容の説明、資料がわかりやすくまとまっていると感じました。これも、今説明にありましたが、2・3年の音楽史、いろいろな年代の日本と西洋の曲について学んでいますが、音楽の歴史的な流れがわかることと、あと、日本と西洋で比較ができる点で有意義なページになっていると感じました。

以上の点から、教育芸術社を候補として挙げたいと思います。

中川委員長

ありがとうございます。

金丸委員

私も教育芸術社でいいのではないかとは思っているんです。その理由は、先ほど話がありましたけれども、やはり授業時間数が非常に少ない。そうすると、結局のところ、担当される教師の方々がこれを全部教えるのではなく、

抜いて教えるだろうと。そうすると、やはり教師にとって一番使いやすい教科書が実質的だと思われるのが私の理由でございます。

中川委員長
教 育 長

ありがとうございました。

私も同じです。音楽一般は、内容によって歌唱を指導することもあるでしょうし、それから、音楽の理論を教えたり、あるいは楽器のことを紹介したり、あるいはクラシックの鑑賞をさせたりとか、いろいろあると思うんですけども、何に力を入れて、千代田区の子どもたちにどんなところを音楽の中でわかってほしいかというところの思いが、そういう先生の思いが込められた教科書がいいと思ひまして、やはり現場の先生が一番使いやすくてよくできているという教科書で、教育芸術社でよろしいと思ひます。

中川委員長

では、前々から教育芸術社で、ずっと教えている教科書ですけども、そんなところで、教育芸術社を候補にしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、全員一致で教育芸術社を採択の候補といたします。

次に、器楽の説明をお願いいたします。

統括指導主事

はい。それでは、これも2社についてご説明をさせていただきます。

まず、教育芸術社でございますけれども、いろいろな楽器の奏法例や、また、ポイントの図などが非常に見やすいということが第一の評価でございます。例えば自分の向きから見てどうであるかという写真の撮り方になっているということでございます。また、様式に戻りますが、観点1につきましては、「Grade Up!」という内容がございまして、個に応じた学習に適しております。また器楽の箏曲、お琴と表現の創作を合わせた教材の工夫により、日本の音楽に親しませる工夫がされております。また、観点2につきまして、アルトリコーダーのアンサンブルで、親しみやすい曲が多く載っていて、生徒の実態に合わせて選択することに適しているということ。また、観点6では、その他として日本の伝統音楽について扱っているページがあり、楽器編成が1ページにまとめられていて、伝統音楽の理解に役立つように工夫されているという点でございます。

もう1社、教育出版でございます。ここにつきましましては、特にアルトリコーダーの表記で非常に優れているという報告がございました。例えば、4つのアーティキュレーション、吹き方の図、それから曲の楽譜のところになんか新しく気をつけなければいけない運指図というものが、その横にすぐ載っておりまして、自分が吹いていてわからない音についてはすぐに確認することができる。これが非常に優れているということでございます。また、観点1でございますが、一般の教科書で扱った既習の曲を器楽でまた演奏するという工夫がされていて、知っている曲を演奏する喜びを感じられるのではないかとということでございます。また、観点2、「Let's Try!」という項目がございまして、楽曲がさまざま載っていて、技術に応じてこれも曲が選択できるということ。また、観点5の発展としまして、なかなか授業では扱

うことはないのですが、ギターのコードネームを、図だけではなく写真で押さえている図が載せてございまして、授業ではやはり先ほど申しました授業時数の関係でなかなか扱うことはできませんけれども、興味ある生徒が、後々これを見て学習することができるのではないかと報告をいただいております。

以上です。

中川委員長

ありがとうございました。

器楽についてはいかがでしょうか。

教 育 長

この前、社明運動のパレードがありましたけども、お茶の水小学校の子どもたちは、5・6年生全員が器楽演奏をできる、すばらしいことだと、楽器を演奏できない私なんかは思います。ですから、そういう千代田区の子どもたちの小学校時代の、例えば特徴を踏まえた上で、中学校の器楽教育をすることになると思うので、そういうことを踏まえた上での教科書の選択ということ、やはり現場の先生が、この教育芸術社の評価が高く、一番千代田の子どもたちに合って使いやすいということですから、私はその現場の先生の意向に沿ったこの教科書で問題ないし、いいと思います。

中川委員長

そのほかの意見はありますか。

金 丸 委 員

私も同意見です。やはり千代田区の場合に、各学校全部に十分な楽器が小学校の段階からあるわけで、それを扱っているわけですから、そういう意味では、確かに教育出版社のアルトリコーダーの表記は優れているかもしれないけれども、アルトリコーダーをやるというよりは、もっといろんな楽器を子どもたちが扱うということを前提のほうがわかりやすいんだろうなと思っています。

中川委員長

ありがとうございます。

よろしいですか。

(な し)

中川委員長

それでは、こちらの器楽につきまして決めていきたいと思います。教育芸術社の器楽演奏という教科書でよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、全員一致で教育芸術社を採択の候補といたします。

次に、美術に移りたいと思います。

指 導 主 事

それでは、美術について報告いたします。

発行者は全3社あり、いずれの観点においても、それぞれに利点がありましたが、選定委員会で特に評価の高かった2社について報告いたします。

まず、光村図書出版です。内容選択につきましては、鑑賞に重点を置いて扱っており、画集のような性格を持っている教科書です。印刷がきれいであり、色が鮮やかで美しく、見やすく、読みやすい教科書であるという評価です。構成・分量につきましては、例えば1年生の5から7ページをご覧ください。図画工作から美術科へ移行する年度当初のオリエンテーションの授業に有効に活用できるつくりとなっております。表記・表現につきましては、

目次のマークのあらわし方が識別しやすい形や色になっており、有効に活用されています。

発展・補充教材の扱いですが、作成過程のことや用具、材料の使い方など、写真の例もよくできており、授業で使えるわかりやすいあらわし方で、いつでも参考にできると高評価でした。最後に、その他です。美術の2・3年生で扱う教科書ですが、そちらの41から44ページをご覧ください。作品の大きさというのは、鑑賞の学習を深める重要なポイントになりますが、写真だけではなかなかその大きさがわからないということがあります。例えばピカソの『ゲルニカ』という作品ですが、その右端、生徒の大体の背の高さが生じてあります。作品『ゲルニカ』と生徒の身丈を比較することができ、本物の作品の大きさについても関心を持つという鑑賞の視点を養えるということで評価がありました。

続いて、日本文教出版です。内容の選択につきましては、生徒の作品を多く扱っており、生徒が興味を持って作品制作に取り組むことができると思います。構成・分量については、A4の変形型です。そのことによって、鑑賞の作品を多く取り扱うことができ、情報量が増加しています。ただ、このA4のサイズの変形型は、ほかの教科書やノートとの兼ね合いもあり、使いやすさという点で議論を呼んだところでもあります。表記・表現については、印刷の鮮明度がよく、文字も読みやすいです。使用上の便宜については、美術の評価観点は4観点ございますが、それぞれについてマークの工夫があり、使いやすいように説明されています。

以上でございます。

中川委員長

ありがとうございました。

美術につきまして、いかがでしょうか。

古川委員

光村図書の教科書がいいなと思いました。まず、いろいろな技法が具体的でわかりやすい。美術品、鑑賞作品の紹介の仕方に工夫があるという点です。今、『ゲルニカ』についてご説明がありましたが、例えば1年生は『風神雷神図屏風』になっていて、屏風も平らに見ると、左右を折り曲げて見ると、印象が変わってくるという注釈がついていて、なるほどなと思いました。この教科書は扉見開きで作品を鑑賞する、その理由が明確で、とても工夫されているなと思って、感動しました。

他社も扉見開きに載っている作品があるのですが、なぜ見開きにするかという意図が、光村図書のものは見えて、よくわかりやすかったです。あと、全体的に写真と説明文の配置が見やすい。目次もわかりやすく整理されている。あと、日本の文化と西洋の文化が、例えば文様や仮面などのページもあったのですが、日本のものと海外のものが併記されていて、文化の違いがわかりやすく感じられるなと思いました。

日本文教出版は、光村図書と比べると、やや盛りだくさん過ぎるかなという印象がありました。

私は光村図書がいいと思いました。

中川委員長 ありがとうございます。

金丸委員。 金丸委員。 私は日本文教出版、やはり作品数が多いなと思って、その意味では素敵だなと思いました。ただ、教科書の大きさがほかと違うというのは、結構生徒にとってみると大きなマイナス点になるのだろうなと思って、その意味で、光村図書にならざるを得ないかな。ただ、光村図書も、例えば同じ着物でも紅型を入れていたり、非常におもしろいなと。ただ、先ほど言った『ゲルニカ』の問題では、実は光村図書だけじゃなくて、日本文教出版も子どもの大きさを入れているんですね。ただ、入れ方が、やはり光村図書のほうはうまいなという意味で、光村図書でいいのかなと思っています。

中川委員長 ありがとうございます。

教育長 島崎教育長。 ご報告とか選定委員会の会議録等を見中でも、特徴は、光村図書は鑑賞主体で、いろんな取り上げている、たくさんの美術作品等を取り上げて、美術分野の多様性を理解させるような編集になっていると思いました。

それから、日本文教出版は、割と、特に1年生等は生徒の作品をたくさん取り上げていて、そういう意味では、子どもたちに作ったり、描かせたり、そういうところを引き出す、それぞれの教科書の意図が、強弱の問題ですけども、あるのかなと思って。

私は、難しいなと思ったのですが、光村図書は写真の使い方が、どちらかというと、良くて、本当に多様な美術作品を紹介していて、なおかつ原作の迫力を伝えるような編集もなされていますので、光村図書でよろしいかと思いました。

中川委員長 ありがとうございます。

金丸委員 美術の教科書も随分と充実したというか、カラフルになって。 本当にですね。実はあの、文教出版の中の見開きに、日本画のいわゆる図版などが入って、それはそれで魅力的だなと思いましたね。

中川委員長 そうですね。

ただ、絵を描くとか、何かを彫刻するとかというだけじゃなくて、そういう美術の世界全体をうまく捉えているということで、皆さん工夫していらっしゃるなと思いました。

それでは、こちらで意見は出そろったと思いますので、美術に関しましては光村図書出版を採択の候補とすることよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長 それでは、光村図書出版を全員一致で採択の候補といたします。

指導主事 次は、保健体育です。

それでは、保健体育について報告をさせていただきます。

発行者は4社ございます。各者とも取り扱う内容、それから取り扱い方はほぼ同一でございまして、いずれの発行者もレベルの高い仕上がりになっております。選定委員会の中では、構成、それから生徒の思考を促す工夫、生

徒の使いやすさということを第一の視点として調査いたしました。本日は、千代田区の中学生にふさわしいものとして高い評価を得たものを2つ紹介させていただきます。

まず、学研みらいですが、内容の選択は、非常に簡潔にまとめられていて、中学生にわかりやすい内容となっています。例えば、自然災害ですが、いずれの発行者もこれについて扱っているわけですが、中学生として自主的に避難を考えたり、災害復興について考えさせたりとする工夫がされており、それから、構成・分量についてですが、1単元見開き2ページを基本としたつくりになっており、資料も充実しております。本文と資料のレイアウトが非常に工夫されていて、わかりやすい構成になっているのが特徴で、文字とのバランスも良いと思われます。表記・表現ですが、資料となる写真、イラストがたくさん載せてあるのですが、文字とのバランスが良く、非常に見やすくなっています。使用上の便宜ですが、「ウオームアップ」というコーナーを設けまして、生徒の思考を促す導入がわかりやすく設定されており、しかも単元の終わりには「章のまとめ」で、学習の定着を図るところが着目できるところでございます。

もう一つ紹介させていただきますのは、東京書籍になります。東京書籍の内容選択についても、適正で良いと思われませんが、往々にしてアスリートの写真を中心にレイアウトする教科書が多い中、スポーツを支える人に触れているところ、広がりを持たせているところが特徴です。構成については、資料中心の構成になっております。表現・表記については、写真、イラストの割合が多くなっております。各単元に「やってみよう」というコーナーがあり、導入に使いやすいという先生方の意見でした。そして、若干ですが、教科書の横幅が広くなりまして、図やイラスト、グラフが豊富に挿入されているというのが特徴であります。また、単元の終わりごとに確認の問題を設定して、各自で学習を深められる工夫が凝らされておりまして、

以上でございます。

中川委員長

ありがとうございました。

保健体育につきまして、ご意見お願いいたします。

古川委員。

古川委員

学研教育みらいがいいと思いました。今ご説明にもあったのですが、資料の提示の仕方、配置が適切でわかりやすい、あと、「章のまとめ」、用語の確認や基礎の完成、活用問題がしっかりしていると思いました。「ウオームアップ」やエクササイズのコナーが学習内容をより身近に考えられるように導いているのではないかなと感じました。

以上の点で、学研がいいと思います。

中川委員長

ありがとうございます。

金丸委員

私も学研教育みらいのほうがいいかなと思います。内容的には本当に両方もいいと思いますが、私はポイントとして、学研みらいの、まず表紙、両方、こう見たときに、こちらは子どもっぽいなど。それに対して、学

研のほうは、それなりにもう少し中学生だというイメージがあるというのが、非常にくだらなと言えなくだらなですけど、第一で、2番目は、生徒とどう向き合うかという単元が18ページのところから19ページにかけて書いてあるんですけども、この説明のほうは、東京書籍の異性への尊重と性情報への対処という、これはページでは14ページから15ページにかけてのものですけれども、よりも、中学生にわかりやすい。どうも東京書籍のほうの話というのは、何か昔のように、難しい話を難しいまま残しているような、そんな感じがするので、わかりやすいほうが子どもたちにはいいのではないかと思います。

中川委員長
教 育 長

ありがとうございます。

両方を比べたときに、学研みらいのほうは、見開き2ページの中にコンパクトに、わかりやすく情報がまとめられていると思いました。これをしばらく見て、閉じて、頭の中でどんなことが書いてあったかを思い出そうとしたときに、この学研みらいのサイズはちょうど手ごろで、左のページにはこんなことが書いてあった、右のページにはこんなことが書いてあったというように割と覚えやすいんですけども、東京書籍は、情報的には多いですけども、割と散漫な印象を受けて、閉じて、またどんなことが書いてあったかを思い出そうとしたときに、何か余りにも雑然とし過ぎて、このページでどんなことが書いてあったかということが、逆に、思い出しにくいのかな、教科書の構成として。何かそんなふうに思って、構成として学研みらいのほうは、見開き2ページの中にわかりやすく、うまくまとめられていると思いました。

中川委員長

ありがとうございました。

いろんな人のメッセージということは、結構東京書籍には書いてはあるんですけども、全体に少し散漫な印象というか、学研みらいのほうが見開きで、本当に1つ1つ問題点をはっきりしているなと思いますね。これから必要な喫煙や飲酒の問題とか、それからたばこ、酒、薬物の問題、感染症とその予防とか、そういうようなことも、感染症とエイズの問題とか、見開きごとに問題がすっきり整理されているなと私も思いました。

そんなところでよろしいですか。

(了 承)

中川委員長

それでは、保健については学研教育みらいを採択の候補としてよろしいでしょうか。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、全員一致で学研教育みらい候補といたします。

次に、英語ということになります。

統括指導主事

それでは、最後、英語について3社ご報告をさせていただきたいと思いません。

まず、この英語につきましては、開隆堂出版についてご報告をさせていただきます。英語科では、生徒の興味を引くように、どの会社においても新し

い話題が取り入れられておりますが、この開隆堂につきましては、その中でも一番新しい話題が取り入れられているのではないかとこのところでございます。例えば、後にノーベル平和賞を受賞しましたマララさんですが、マララさんが、受賞する前、2013年にしたスピーチなどの話題が入っております。なかなか2014年、2015年のものは教科書に入れるというのは難しいので、そういった意味では、2013年度が入っているということは一番最新なものが入っているのではないかなと。やはり生徒の興味を引きつけるということについては、これは非常に大きな魅力であろうということでございます。また、2番の構成のところでございますけれども、これがほかの教科書会社と非常に大きく異なっております。既に開いて、調査研究をいただいているところだと思っておりますが、各レッスンの指導の流れというものが、この開隆堂は、まず、左側のページに、聞く、話す、読む、トライという4技能の流れが順序立ててまず入っております。具体的には、リッスン、スピーク、そして読んで、トライというものが導入の左ページに入っております。それから右側に本文ということで、実際に習う本文が入っております。実際のトレーニングをしてから、それが使われている文章を読んでみよう、やってみようということで、英語の授業につきましては、このような流れで実際はやっております。そういった意味では、実際の授業の流れをそのまま使える形になっているということが、開隆堂は極めて特別な形になっているということが言えるかと思っております。また、写真につきましても、大変豊富になっております。場面、場面に大変質のいい写真が入っておりますので、生徒に臨場感を与えることができるということでございます。また、特徴的なところで、4番目ですが、巻末に、各レッスン、ページのターゲットセンテンスのところ、ダイアログのまとめということで、何を勉強してきたのかということが、1つ1つ、英語、日本語の対訳が出ておまして、なかなか理解できなかった生徒も、ここで復習しやすいという形になっております。もう一つ特徴的なところは、6番のその他のに記載しておりますように、一番最後の折り込みに、CAN-DOリストが入っております。今までの目標では、教科書の1つの単元が終わったときに、内容が理解できましたか、読み終えましたかという指導をして、それから評価するという形になっていたのですが、これから、国のほうでも示されまして、CAN-DOリストを作ると、このCAN-DOリストの形で、これができるようになるということ、使えるようになる英語をきちんと求めていきたいと思いますということで、きちんとこれを明示するという形になっております。そういった意味で、この教科書は、これをあらかじめ生徒にもきちんと示すという形で、生徒自身が自分自身を振り返るという形になっているという意味では、非常に新しい、また先取りした形の教科書になっているかと思っております。

2つ目、学校図書でございます。これは『トータル・イングリッシュ』というタイトルで入っております。こちらにつきましても、新しい話題ということで、1年生のレッスン4、これにスカイツリーが取り上げられておりま

す。また、英語科では、昔からスタートが一般動詞の教科書ということで、これは根強い人気がございます。現在は小学校で英語活動ということで、何が好きとか、サッカーをするなど、自己表現をしているということがございますので、それを引き継ぐという形で、小学校の活動をそのまま取り入れて抵抗なく入っていくことができるというつくりになっております。ただ、従来の形とは変わってきますので、一般的な文法の配置からしますと、その後のフォローは十分に必要であろうということがございます。それから、生徒が昔のように読んでわかるという形ではなくて、活動させるために有効だという考え方でございますけれども、写真や図を多くしておりまして、非常に視覚的に英語を楽しく学ぶ雰囲気をつくっているということが挙げられるかと思えます。

最後に三省堂でございます。これも新しい題材を取り入れながら、従来の昔からの古典的な名作もきちんと保っているという教科書でございます。新しいものとしては、テニスの錦織選手が取り上げられているということがございます。また、パターンプラクティスをする、技術の定着のためのパターンプラクティスをするという意味では、さまざまな題材が載せられているので、大変良いということがございます。また、三省堂としては、昔から4技能が満遍なく取り入れられているということで定評がございますので、そういった意味では、バランスのとれた教科書であるということが言えるかと思えます。

以上でございます。よろしくお願ひします。

中川委員長
教 育 長

それでは、ご意見をお願いします。

今、平成27年度までは東京書籍を使っていますけれども、今回東京書籍が評価されていませんけれども、選定委員会の中で、今回東京書籍に対する議論とか意見があれば、聞かせていただきたい。

統括指導主事

4年前、ちょうど学習指導要領の改訂もございましたが、そのときに東京書籍を選定した理由というのが、やはり小学校と中学校の繋ぎという意味で、滑らかな接続を意識していこうということで、その当時は東京書籍を選びました。小学校からの導入ということで、中1は語彙量、その他もろもろを非常に絞ってあるということがございました。ただし、実際使ってみますと、1年まではうまく小学校からの連続ということができるとは思いますが、2年生になったところで、やはりどうしても3年間の中で扱わなくてはいけない語彙量とか文法等決まっていますので、2年、3年とぐっとレベルが、扱わなくてはいけない量も増えるということで、逆に、2年、3年でギャップがあって、つまり子どもが多く、教えるのに少し苦慮したという現場の声がございましたので、今回はこの東京書籍につきましては、選定委員会での評価は高くないという状況になっております。

中川委員長

いかがでしょうか、ほかには。

古川委員

はい、古川さん。

学校図書の教科書にも新しさを感じたのですけれども、開隆堂出版の教科

書がいいと思います。いいと思った点は、今のご説明いただいた内容で、まず、左ページに授業展開が、リッスン、スピーク、トライの構成になっていて、学習の流れが順序立てられているという点と、あと、巻末資料が充実して、まとまっているという点、あと、CAN-DOリストはとても興味深かったです。生徒が自主的に学習の確認や復習をするのに役立つのではないかと思います。

以上です。

金丸委員

なかなかこれも選ぶのが難しかったところです。ただ、先ほどあったように、マララさんの話などが載っているというのは非常に魅力的だなという感じはしました。実際に教えるときに、各レッスンの指導の流れが指導にうまく合致しているかどうかというのは、私自身もう一つよくわからないのですが、現場の先生方が合致しているとおっしゃるのであれば、やはりそれが一番いいだろうという感じを持っております。

中川委員長
教育長

ありがとうございます。

私も開隆堂は、例えばCAN-DOリストを作っていて、使えることへの意識を高めている、自分で学ぶことに配慮した構成になっているというところはなかなかいいなと思いました。それから、取り上げている教材も、何回も先ほどから説明の中で出てきていますけども、時代性がある、単に錦織選手を取り上げるということもあるけれども、マララさんが演説して非常に心に残る、言葉が残っている、そういうのを教科書としてすぐに取り上げる、昔で言えば、リンカーンの演説だとか、ケネディの演説だとかって、非常に今聞いても印象に残るいい演説がある中で、マララさんが発言した、そういう訴えかけるところがすぐに教材として取り上げられていて、非常に心に訴えかけるところが多いので、教材としてはいいのかなと思いました。

中川委員長

すっきりとこれだけ順序立ててやれば、きっと英語が好きになるだろうなとは思いますが、小学校からの接続ということで、そのこのところがやはりこの教科書では、結構難しいかなというところは少し感じたんですけども。

統括指導主事

そうですね。前回の学習指導要領の改訂で、小学校5・6年生に外国語活動が入ってから、その翌年に中学校の学習指導要領の改訂もございましたけれども、それを視野に入れて、どの英語の教科書についても、一番最初にはやはり小学校でやったことを、少し中学校の先生が解きほぐして、それから繋いでいくという形となっています。例えば『サンシャイン』、開隆堂では、レッツスタートという形となっています。余り文字がない形で、絵が多いという、いわゆる小学校外国語活動で使われているような教材を活用し、しばらくならしていくという形にはなっております。

中川委員長

わかりました。

大体ご意見はいただけたと思いますので、採択の候補を選ばせていただけてよろしいでしょうか。

(了 承)

中川委員長

開隆堂出版の『サンシャイン』でよろしいと思う方は。

(賛成者挙手)

中川委員長

それでは、開隆堂出版を全員一致で英語の教科書の採択の候補といたします。

これで協議は終わりましたが、この件につきましては、改めて議案として提出し、決定することといたします。よろしく願いいたします。

以上で、本日の日程は全て終了しました。本日の定例会を終了したいと思います。ありがとうございました。